

RNA共創コンソーシアム：深掘りレポート

要約

RNA共創コンソーシアムは、花王株式会社と株式会社アイスタイルが中心となり2024年に設立された、美容・健康分野の企業連携コンソーシアムです¹。花王が開発した「皮脂RNAモニタリング」技術により、人の**皮脂からRNAを解析して現在の肌や体の状態を把握**できるようになり²、このRNA情報を新たな“モノサシ”として個々人に最適な商品・サービス選びを可能にすることを目指しています¹³。コンソーシアムには花王・アイスタイルのほか、コーセー、マツキヨココカラ&カンパニー、キリンホールディングス、パーフェクト社、ヘルスケアシステムズなど業界をリードする企業が参加しており⁴、業種の垣根を超えた共創により**美容・ヘルスケア産業全体のイノベーション**と持続可能な消費サイクルの実現に挑んでいます³。2025年の「CEATEC 2025」では「RNA-Tech Driven Society 〜RNAテックで変わる暮らしの8つの新基準〜」をテーマに出展し、生活者がRNAによって自分を知り商品やサービスに出会う未来像を提示して**共創部門賞**を受賞しました⁵⁶。本レポートでは、RNA共創コンソーシアムの設立目的・活動内容、提唱する「RNAテック」の概念と技術的背景、参加各社の役割、CEATEC出展内容と受賞理由、RNA技術が普及した社会の未来像、そしてRNA情報活用に伴うプライバシー・倫理課題について多角的に考察します。

RNA共創コンソーシアムの基本情報と設立目的

RNA共創コンソーシアム（RNA Co-creation Consortium）は、美容・健康領域の企業が結集し、花王の「皮脂RNAモニタリング」技術を核に様々な共創活動を行う組織です⁴。2024年3月11日に花王株式会社（代表取締役社長・長谷部佳宏）と、日本最大のコスメ・美容プラットフォーム「@cosme（アットコスメ）」を運営する株式会社アイスタイル（代表取締役社長・遠藤宗）によって共同設立されました⁷。両社が理事（運営委員会）を務め、他に**コーセー、マツキヨココカラ&カンパニー、キリンホールディングス、パーフェクト株式会社、ヘルスケアシステムズ**の5社が創設メンバー（幹事企業）として参画しています⁴。

設立の背景には、現代の市場にモノや情報があふれ「自分に何が合うのか」消費者が選択に悩む状況があります¹。例えばコスメやヘルスケア商品の分野では、口コミランキングや店頭テスターなど多様な情報提供手段があっても、結局どの商品が自分に適しているか判断が難しいケースが少なくありません⁸。さらにデジタルメディアの発達で選択肢が増えすぎたことや、合わない商品の購入による**顧客不満足・商品の廃棄**（売れ残り）といった問題も指摘されています⁹。こうした課題を解決する新たな基準として着目されたのが、**個人の体質・状態を示すRNA情報**です。DNAが人それぞれ生まれつき決まった特徴を示すのに対し、**RNAは日々の体調や環境で変化する動的な情報**であり、その時々肌や身体状態を知るのに有用とされています²。花王の研究所は2019年、皮脂を採取して人由来のRNAを網羅解析する独自技術「皮脂RNAモニタリング」を世界で初めて構築し¹⁰、非侵襲で現在の肌状態を詳細に把握できる道を開きました。この技術により「**自分の今の状態**」を**客観データで知る**ことが可能になれば、商品・サービス選びの精度が飛躍的に高まると期待されます¹¹¹²。

以上を踏まえ、RNA共創コンソーシアムは「**RNAを新たなモノサシとして、作る・売る・選ぶの基準を変革する**」ことを目的に掲げています¹³³。具体的には、RNA情報に基づいて生活者一人ひとりにより高い満足度をもたらすパーソナライズドな商品・サービス選択の仕組みを創出し、同時に需要と供給のミスマッチ解消によって環境にも人にも無駄のない持続可能な消費サイクルを実現することを目指しています³¹⁴。このミッションの下、コンソーシアム参加各社が企業の垣根を超えて連携し、共通のRNA技術基盤を活用した新サービスの検証や標準づくりに取り組んでいます¹¹⁵。

コンソーシアムの公式サイト・活動内容

RNA共創コンソーシアムの公式サイトでは、そのビジョンを「**遺伝子レベルで自分を知り、一人ひとりが輝く社会へ。**」と謳っています¹⁶。人生100年時代を迎えた今、自分の身体に関する最も根源的な情報（遺伝子発現＝RNA）を誰もが把握し、本当に価値あるものを選ぶ環境を整えることで、各自が生涯にわたり最大限にポテンシャルを発揮できる社会を目指すという理念です¹⁷¹⁸。その起点となるテクノロジーが花王の「**皮脂RNAモニタリング技術**」であり、これを軸に名だたる企業が一体となってコンソーシアム活動を展開することで、グローバル規模での大きな潮流を生み出したいとしています¹⁹²⁰。

コンソーシアムの具体的な活動内容は大きく3つに整理されています²¹²²：

1. **実証活動の支援・推進**：皮脂RNAモニタリング技術を活用した事業の実証実験を支援・推進します²¹。生活者の悩みに対応する新たなソリューションのデザインと検証、美容領域やヘルスケア領域における商品開発・サービス開発のイノベーション推進が含まれます²³。例えば、RNA情報を活用したスキンケア提案サービスの試験運用や、健康管理サービスへのRNA指標導入の検証などが想定されます。
2. **ビジネスマッチングと成果の社会実装支援**：コンソーシアム内外での企業間マッチングや連携を促進し、実証実験の成果を社会に発信・展開する役割です²⁴。得られた知見を業界標準や新サービスとして社会実装するために、他企業・団体との協業を図ります。異業種連携により、新たなビジネスモデルやサービスエコシステムの構築も視野に入れています。
3. **データ保護とプライバシーポリシーの策定**：RNAに関するデータの保護およびプライバシー確保のため、厳格なポリシー設定も活動の柱とされています²⁵。個人の遺伝子・健康情報というセンシティブデータを扱うため、法令遵守はもちろん、本人同意の徹底や匿名化処理、利用目的の限定など高水準の情報管理体制を敷くことが謳われています。実証実験やサービス開発においても、生活者が安心して参加・利用できるようデータ倫理に最大限配慮する方針です。

このように、コンソーシアムは技術検証とイノベーション創出だけでなく、**社会実装に向けた橋渡しやデータガバナンスの確立**にも注力している点が特徴です¹⁵²⁶。公式サイト上でも「ご参画頂ける企業さまを募集中」として、賛同企業の参加を呼びかけています²⁷²⁸。参加のメリットとして「商品・サービス開発のイノベーション推進」「情報収集・研究機会の獲得」「参画企業同士のビジネスマッチング」などが挙げられ、オープンイノベーションの場であることが強調されています²⁹³⁰。コンソーシアムは今後も参加企業を拡大しながら、RNAを基軸とした産業横断の共創活動を加速していくとみられます。

「RNAテック」とは：RNAで個人の状態を把握する技術

コンソーシアムが提唱する「**RNAテック**」とは、個人の生体情報であるRNAを解析・活用することで、美容や健康におけるパーソナライズドなサービスを実現する一連の技術・ソリューションを指します。中核となるのが花王開発の「**皮脂RNAモニタリング**」技術であり、これは**あぶらとりフィルムで顔の皮脂を採取し、そこからRNAを抽出・網羅解析する独自技術**です²。皮膚表面の皮脂には、皮脂腺から分泌される際に細胞内成分（RNAを含む）が放出されるため、人のRNAが含まれることが花王の研究で発見されました¹⁰。皮脂中のRNAは皮膚上の酵素による分解を皮脂自体が抑制するため安定に存在し得ることも判明し¹⁰、この知見を基に約1万種ものRNA発現情報を解析可能な画期的技術が構築されたのです³¹。

DNA（遺伝情報）が一生変わらない個人固有の設計図だとすれば、**RNA（リボ核酸）はそのDNAの指示に基づいて作られる各種タンパク質の元となる分子**であり、しかも**臓器や環境要因によって日々変動する動的な指標**です³²²。例えば肌でいえば、DNAが「生まれ持った肌質」（乾燥しやすいか油っぽいか等）の把握に適しているのに対し、RNAは「今この瞬間の肌状態」（バリア機能が低下している、炎症反応が起きている等）を知るのに適しています³³。従来、このようなリアルタイムな肌状態の分子レベル分析は侵襲的な皮膚生検でも行わない限り困難でしたが、皮脂RNAモニタリング技術により簡便に実現しました³⁴³⁵。実際、花王の研究では皮脂RNA解析によって**アトピー性皮膚炎患者の肌ではバリア機能関連遺伝子の発現低下**

や炎症関連遺伝子の発現上昇が検出され、病態の重症度を反映していることが確認されています¹¹。この結果は既知の医学知見とも一致し、**非侵襲でありながら肉眼で見えない肌状態の差異も把握し得るRNAモニタリングの有用性を示しています**³⁶。

以上のようなRNA解析技術を土台に、RNAテックでは個人の肌・体のコンディションを見える化し、その情報を商品提案や健康アドバイスに結びつけます³⁷。具体例として、花王とアイスタイルは**皮脂RNAデータに基づく新たな肌タイプ分類「肌遺伝子モード」**を共同開発しました³⁸。約6,000人の@cosmeメンバーから提供された皮脂RNAデータと顔画像を解析し、RNA発現パターンの類似性から肌を2つのタイプに大別することに成功したものです³⁸。タイプ1は**免疫応答**など肌の免疫機能に関わる遺伝子群が高く発現するグループ、タイプ2は**角化**など肌のバリア機能に関わる遺伝子群が高発現するグループであることが判明しました³⁹。興味深い点として、従来の「乾燥肌・脂性肌」「敏感肌・普通肌」といった表面的な肌質分類とは異なる軸で肌状態を把握できる可能性が示唆されています⁴⁰。この**「RNAによる肌タイプ分類」**はまさにRNAテックの成果の一例であり、今後さらなる検証で肌状態との関連性を詳細に解明していく予定です⁴¹。

また、このRNA由来の肌タイプ（肌遺伝子モード）を活用したサービス展開も始まっています。**スマートフォンで顔写真を撮るだけで、自分の肌遺伝子モードを推定できるAIモデル**が開発され、2023年にはアイスタイル運営の@cosme店舗で店頭実証が行われました³⁸⁴²。参加者の顔画像から肌遺伝子モード（タイプ1 or 2）を判定し、そのタイプ毎に満足度の高い化粧品を紹介する体験を提供したところ、大変好評で募集定員の約16倍に当たる応募が集まったといいます⁴³。この結果は、**生活者がRNAテックによる「新たな化粧品選択の方法」へ高い期待を寄せていることを示しており**⁴⁴、RNA情報を日常的な商品選びに取り入れることの潜在需要を裏付けています。

要するに「RNAテック」とは、**遺伝子レベルの身体コンディション把握技術を日常生活サービスに応用すること**であり、肌状態のみならず体内の免疫状態やストレス状態など幅広い健康指標への展開も期待されています⁴⁵。例えば花王は、皮脂RNAから得られる情報を肌美容だけでなく**全身の健康状態把握にも役立てられる可能性**を指摘しており⁴⁶⁴⁵、実際に**乳幼児のアレルギー疾患リスク評価や神経疾患（パーキンソン病）の早期発見**といったテーマで研究を進めています⁴⁷⁴⁸。RNAテックは美容・医療・ヘルスケアを横断する**次世代テクノロジー**として、今まさに発展段階にあります。コンソーシアムの設立によって産学連携やデータの集積・標準化が加速し、その社会実装が現実味を帯びてきています。

参加企業とコンソーシアム内での役割

RNA共創コンソーシアムには前述のように多様な企業が参加しており、それぞれ**自社の強みを活かしつつRNAテックの社会実装に貢献する役割**を担っています⁴⁹。以下に主な参加企業とそのコンソーシアム内での位置づけ・関連事業について整理します。

- ・**花王株式会社（理事企業）**：皮脂RNAモニタリング技術の提供者かつコンソーシアム発起人です。花王は長年培ってきたスキンケア・ヘルスケア研究の知見を活かし、RNA解析技術のコア開発や応用研究をリードします¹。自社の高級スキンケアブランド「est（エスト）」では既にRNAモニタリングを活用したサービス開発を進めており⁵⁰、例えば肌のRNA検査に基づくカウンセリングサービスなどを検討中とされています。またコンソーシアムには、花王研究所が持つ膨大なRNAデータや知見が共有され、他企業のプロジェクトにも活用されます。花王は**美容業界のサイエンス面の牽引役**として、基盤技術とデータインフラを提供しつつ、新指標（RNA）の有用性を様々な実証を通じて示す役割を果たしています⁵⁰。加えて、花王はRNA情報の応用範囲拡大にも積極的で、**乳幼児の肌バリア機能チェック**（後述の「ベビウェルチェック」）や**感染症時の免疫状態解析、神経疾患のバイオマーカー探索**などヘルスケア領域への展開研究も行っています⁴⁷。これはコンソーシアム全体にとって、RNAテックの可能性を広げる先導的な取り組みと言えます。
- ・**株式会社アイスタイル（理事企業）**：日本最大のコスメ情報プラットフォーム「@cosme」を運営する企業であり、**生活者視点・マーケティング面の牽引役**です。アイスタイルは自社が抱える数百万規

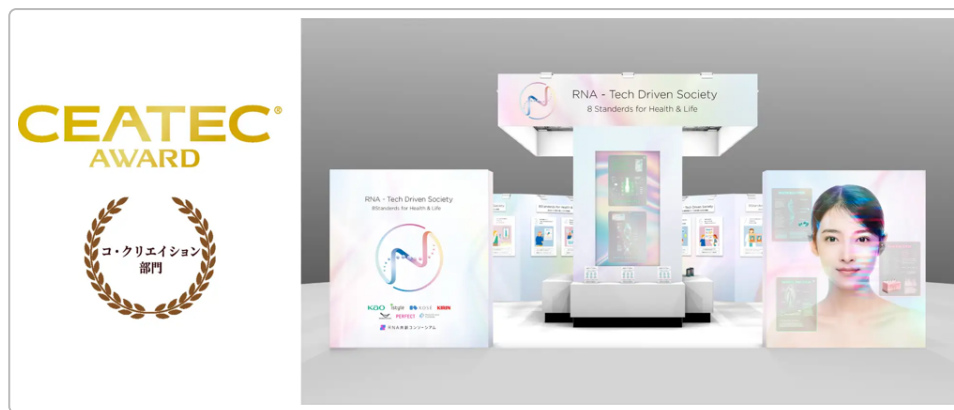
模のユーザーデータや店舗網を活かし、RNA技術を実際の消費者サービスに結びつける実証に取り組んでいます⁵¹³⁸。先述の**肌遺伝子モード判定機能**を@cosmeアプリに実装したのもアイスタイルで、2025年にはその機能を一般ユーザー向けに提供開始しています⁵²⁵³。このように**RNAテックのユーザー体験をデザインし提供する役割**を担っており、コンソーシアム内では参加各社とのコラボレーションや店頭・メディアでのサービス実証を推進しています⁵⁴⁵⁵。アイスタイルは「安心して利用できる肌遺伝子モード情報の利活用基準づくり」に注力すると表明しており⁵⁶、個人のデリケートな遺伝情報を扱うサービス提供者として、**ユーザーに寄り添ったルール作り**も重要な役割です。@cosmeという巨大プラットフォームを持つ強みから、**RNAテック普及のハブ**として期待されます。

- ・**株式会社コーセー（幹事企業）**：大手化粧品メーカーとして参加。自社の商品開発力や研究力をもって、RNA情報を活用した新たな美容法・製品開発を図ります。例えばRNAで判明した肌タイプごとの有効成分検証や、それに基づくスキンケア商品の開発などが考えられます。コーセーは外部技術の積極活用にも熱心であり、コンソーシアムを通じて得られるRNA解析データを**自社製品の革新**に繋げる狙いでしょう。将来的には「RNAで選ぶ化粧品」という新カテゴリー創出において、同社がリーディングカンパニーとなる可能性もあります。
- ・**株式会社マツキヨココカラ&カンパニー（幹事企業）**：ドラッグストア業界最大手の一角であり、**流通・リテール側の代表**として参画しています。全国のマツモトキヨシやココカラファインの店舗ネットワークを背景に、**店頭でのRNAサービス実装**が期待されます。例えば、店頭で皮脂を採取してRNA簡易チェックを行い、肌状態に合った商品をその場でレコメンドするといったサービスが考えられます。また、コンソーシアム内で開発されたサービスの社会実装時に、実際に消費者と接点を持つ**提供プラットフォーム**の役割も果たすでしょう。生活者への浸透を図る上で、小売現場からのフィードバックやオペレーションノウハウ提供など、重要な橋渡し役となる企業です。
- ・**キリンホールディングス株式会社（幹事企業）**：食品・飲料大手であると同時に、近年ヘルスサイエンス領域に注力している企業です。キリンは代謝・免疫など**身体内部の健康指標**へのRNA応用に関心が高いと考えられます。実際、コンソーシアムのカンファレンスではキリンの研究員が「肌・免疫・ライフスタイルの未来」というテーマで講演しており⁵⁷、**RNAで免疫状態や生活習慣の影響を可視化する**展望を示しています。具体的には、キリンが展開する機能性食品やサプリメントの効果検証にRNA指標を用いたり、個々人の免疫応答プロファイルに基づいた飲料・食品提案などが考えられます。花王とヘルスケアシステムズが共同で研究した**乳幼児アトピーリスク検査**（ベビウエルチェック）にもキリン中央研究所が協力しており、食品と遺伝子解析の融合による新サービスの可能性も模索しています⁵⁸⁵⁹。キリンは**ヘルスケア産業へのRNAテック適用**の推進役として、コンソーシアムにユニークな価値を加えています。
- ・**パーフェクト株式会社（幹事企業）**：AR技術やAIによる美容ソリューション（「YouCam」等）で知られる台湾発のテック企業で、日本法人が参加しています。パーフェクト社は**画像解析やバーチャルメイク技術**に強みがあり、RNAテックとデジタル技術の架け橋となる存在です。既にRNAから肌状態を推定するAIモデル開発には画像解析が不可欠であり、パーフェクト社はそのアルゴリズム提供やスマホアプリ統合に寄与しているとみられます。将来的には、同社の持つ**バーチャル肌診断やオンラインカウンセリングプラットフォーム**にRNA解析結果を組み込み、リモートで個別最適な美容アドバイスを提供するサービスなどが想定できます。テクノロジーベンダーとして、コンソーシアム内の技術実装を加速させる役割です。
- ・**株式会社ヘルスケアシステムズ（幹事企業）**：郵送検査キット等による健康チェックサービスを展開するスタートアップ企業です。「**生活習慣のミスマッチをゼロにする**」ことをミッションに掲げ、個人の健康状態を可視化して最適なプログラム提案を行う事業を行っています⁵⁸。2023年には花王と共同で**乳幼児の肌バリア機能を調べる郵送検査サービス「ベビウエルチェック」**を開発しており⁵⁹、これは皮脂RNAモニタリング技術を活用した初の商用サービス例です。ヘルスケアシステムズ

はコンソーシアム参加企業の中でもヘルステック領域の実践者として、RNA技術を用いた新サービスの開発・運営ノウハウを提供します。郵送検査インフラを持つ強みから、将来的に**在宅で皮脂RNAを採取して健康管理に役立てる**といったサービスモデル構築にも貢献できるでしょう。コンソーシアムを通じて、大手各社と連携しながら新価値創造と業界のサステナブル発展に寄与する姿勢を示しています⁶⁰。

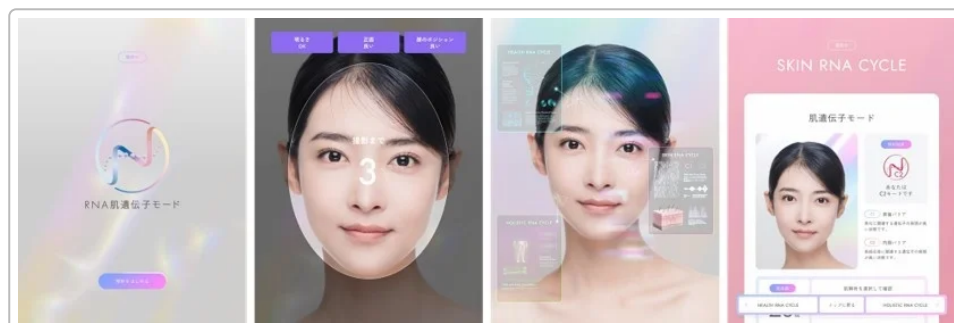
以上のように、参加各社はそれぞれ「技術」「マーケット」「流通」「健康科学」「ITプラットフォーム」「検査サービス」といった異なるリソースを持ち寄り、RNAテックを軸に**共創（Co-creation）**しています⁴⁹。この布陣により、研究開発から製品化・販売・サービス提供まで一貫してカバーするエコシステムが形成されつつあります。特筆すべきは、**全社が共通のRNA指標を共有しながら、自社領域での顧客課題解決に挑んでいる点**です⁴⁹。これはビューティ＆ヘルス産業全体で新しい価値創出サイクルを作ろうという壮大な試みであり、参加企業にとっても従来にないコラボレーション機会となっています。産業横断コンソーシアムである強みを活かし、今後も賛同企業が増えれば、さらに幅広いサービス展開や業界標準化にも弾みがつくでしょう。

CEATEC 2025での出展内容と「共創部門賞」受賞



図：CEATEC 2025のRNA共創コンソーシアム出展ブース（イメージ）と共創部門賞ロゴ⁶¹ ⁶

コンソーシアムは2025年10月、幕張メッセで開催された最先端技術展示会「CEATEC 2025」に「RNA共創コンソーシアム」として出展し、大きな注目を集めました⁵。ブースのテーマは「RNA-Tech Driven Society ～RNAテックで変わる暮らしの8つの新基準～」であり、RNA技術によって日常生活がどう変わり得るかを8つの視点で提案する内容でした⁵ ⁶²。会場には花王・アイスタイル・キリンの三社を中心に現在取り組んでいるRNA活用事例と、将来の暮らしの姿を示す展示パネルが設置され⁶¹ ¹、生活者が「RNAで自分を**知って商品やサービスに出会う**」時代の到来を具体的にイメージできるよう工夫されていました。例えばパネル展示の一つでは、「RNA周期ケアで“使い時”が科学的にわかる世界」と題し、サプリメントやスキンケアの効果がRNAレベルで見える化されることで、自分の状態に合わせて適切なタイミングでケアを行える未来像が描かれました⁶³。これは、単に主観や一般論に頼るのではなく、RNAデータに裏付けられた科学的根拠で生活習慣を最適化できることを示唆しています。



図：スマホで顔を撮影するだけで肌遺伝子モードを判定・可視化するRNAテック体験（CEATEC 2025展示より）⁵²

ブースの目玉の一つが来場者向けの「RNAテック体験コーナー」でした⁵²。ここではスマートフォンで自身の素顔を撮影するだけで、**皮脂RNA発現情報に基づく肌タイプ（肌遺伝子モード）**をその場で推定し、現在の自分の肌や身体の状態を多角的に可視化するデモが行われました⁵²。これは前述のアイスタイルと花王が開発したAI判定モデルを活用したもので、撮影した顔写真から即座に「あなたの肌遺伝子モードはタイプ1（または2）です」と結果が表示されるとともに、タイプ別**にお勧めのコスメ商品やスキンケア方法**が紹介される仕組みです^{38 43}。来場者は自分のスマホで手軽に体験できるため非常に好評で、RNAテックがもたらすパーソナライズ美容の可能性を実感できる内容でした。また、ブースでは他にも**花王による最新研究紹介**が行われ、**皮脂を郵送して肌解析を行うサービス「Skin Potential Analysis（スキンポテンシャル分析）」**や、先に触れた**乳幼児肌バリア機能検査サービス**、さらには**感染症における免疫関連分子の解析やパーキンソン病研究**まで、RNA技術の幅広い応用例が紹介されています⁴⁷。これにより、RNAテックが単にコスメ選別に留まらず**医療・健康分野にも応用可能なプラットフォーム技術**であることを来場者に強くアピールしました。

コンソーシアムの展示は、高い評価を受けて「CEATEC AWARD 2025」コ・クリエイション（共創）部門賞を受賞しています^{64 65}。この賞は多様な業界企業が共創した技術・サービスの中で、特に先進性や未来社会への貢献度が高いと認められた案件に贈られるものです⁶。審査委員会は『ビューティ＆ヘルスケアを変革する、産業を越えた共創—RNAで繋がる花王・アイスタイル・キリンによる未来創出—』と題したコンソーシアムの取り組みが、**RNAをモノサシとして業界横断的な商品・サービス提供・選択を可能にする未来**を提案している点を評価しました⁶。異業種企業が連携し新たな市場や価値基準を創ろうとする姿勢、および基盤技術と具体的なアプリケーションの双方を提示した点が高く評価されたと言えます。実際、CEATEC会場の反響も大きく、来場者からは「非常に興味深い」「実用化が待ち遠しい」といった声が上がったと報じられています（※会場取材記事などより）。この受賞により、RNA共創コンソーシアムの名は技術業界内外に知られるところとなり、共創活動へのさらなる賛同者・協力者を増やす契機にもなったでしょう。

RNA技術が普及した社会の未来像と影響

コンソーシアムが描く未来像は、一言で言えば「**RNAテックが当たり前前に溶け込んだ暮らし**」です⁶²。それはつまり、個々人が日常的に自分のRNA情報（＝その時の体の状態）を把握し、それに基づいて最適な選択や行動を取ることが当たり前になった社会です。例えば朝起きてスキンケアをする際に、スマホや鏡に搭載されたセンサで**皮脂RNAを読み取り「今日は肌バリア機能が低下気味だから保湿重視のケアをしよう」「紫外線ダメージ応答が見られるからUVカットをより入念に」**といった**科学的なセルフケア判断**ができるようになるかもしれません。あるいはドラッグストアに行けば、店頭のRNA簡易測定スポットで現在のストレスホルモンや免疫状態を測り、それに応じた栄養ドリンクやサプリメントがレコメンドされる、といった光景も考えられます。**誰もが自分専属の健康美容アドバイザー（＝RNA解析AI）を携える時代**とも言えるでしょう。

このような社会では、消費者のメリットは大きく2点あります。第一に、**商品・サービスのパーソナライズ度合いが飛躍的に向上し満足度が高まる**ことです。肌質や体質に合わず無駄になる化粧品、効果を実感できない健康法にお金と時間を費やすといったことが減り、「自分には何がベストか」を的確に選択できるようになります^{66 8}。実際、コンソーシアムの目標も生活者の満足度向上に置かれており、RNAテック導入による**消費の効率化・的中率向上**が期待されています^{3 9}。第二に、**健康管理や美容ケアの精度向上・負担軽減**です。RNAは体調変化をリアルタイムに反映するため、日々の体調管理指標として極めて有効です²。例えば感染症に罹る前兆として免疫関連RNAの動きが察知できれば早めの休養や受診につながれますし、生活習慣病リスクもRNAパターンから早期に検出できる可能性があります^{46 45}。美容面でも、エイジングの進行度合いや炎症兆候をRNAレベルでモニタリングすることで、個々人に合わせた**先手のケア**が可能となるでしょう。つまり、RNAテック普及社会では「**未病・予防の高度化**」と「**個別最適なウェルネス実現**」が大衆レベルで享受できるようになるわけです。

産業界への影響も革新的です。**ビューティ&ヘルス産業のデータ駆動化**が進み、企業は膨大なRNA関連データを分析してニーズを精緻に把握したり、新商品の開発に役立てたりできるようになります。とりわけコンソーシアム参加各社は業界標準となり得るRNA指標を共有しているため、**共通プラットフォーム上での競争と協調**が同時に発生します。他社とデータ基盤を共有しつつ、提供する価値（製品・サービス）で差別化を図るという新たなビジネスモデルが展開されるでしょう。この構造は生活者にとっても利便性が高く、例えばRNA計測一つで様々な企業から最適提案が受けられるような**エコシステム型サービス**が生まれる可能性があります。

また、コンソーシアムが掲げるもう一つのキーワードに「**サステナブルな消費サイクル**」があります³。RNAテック普及により無駄な消費や廃棄が減ることは、環境負荷低減にもつながります。実際、2022年に花王とアイスタイルが行った共同取り組みでは、RNAを用いた化粧品マッチングで**顧客満足度向上と商品の廃棄削減**を目指すとしています⁶⁷。適切な商品が選ばれ長く愛用されれば、過剰生産や早期廃棄も減るというわけです。さらに製造側でも、よりの確な消費動向予測が可能となり在庫ロスの削減やサプライチェーンの最適化が期待できます。いわば**需要と供給のミスマッチ解消による経済・環境効率の向上**が、RNAテックによって後押しされるのです³。

社会全体で見れば、RNAテックはヘルスケアとビューティの融合を進め、人々の生活の質（QOL）を高めると同時に産業の構造を変革するポテンシャルを持っています。「**自分の体を知ること**」が当たり前になれば、**人々は今より主体的に健康増進や美容に取り組むようになる**でしょう。これは公衆衛生の向上や医療費削減にも寄与し得ます。一方で企業にとっては、顧客との関係が単なる物販から**継続的なコンディションモニタリング&サービス提供**へと変わり、新たな収益モデルや顧客エンゲージメント手法が生まれます。例えば定期的にRNA検査キットを送付し、それに基づくパーソナル提案を行うサブスクリプションサービスなどが考えられます。ビューティ分野では「**効果を科学的に証明できる化粧品**」が信頼を勝ち取り、ブランド価値を左右するでしょうし、ヘルスケア分野でも「**個別データに基づく精密な健康サービス**」が広がるでしょう。

もっとも、こうした未来像を実現するには乗り越えるべき課題もあります。技術面ではRNA解析のさらなる高速・簡便化や低コスト化が必要です（現状では高度な解析装置や専門家が必要なケースが多いため）。しかし近年のバイオテクノロジー進歩は目覚ましく、コンソーシアムの活動が軌道に乗る頃にはウェアラブルデバイスでRNAセンサーが登場する、といった可能性も否定できません。実際、皮脂中のRNA検出はテーブル一枚で済むため、開発次第では**スキンパッチ型のRNAセンサー**など将来出現するかもしれません。

総じて、RNA共創コンソーシアムが目指す社会とは「**生活者一人ひとりが自分の遺伝子発現情報を活用して、より良い選択を行い豊かに生きられる社会**」であり、それは個人の幸福度と産業の発展が両立する新しい社会モデルとも言えるでしょう。消費者・企業・環境の三方良しを追求する点で非常に未来志向かつ意義深い取り組みと言えます。

パーソナライズドサービスの社会的課題：プライバシーと倫理

RNA情報を個人のサービスに活用する上で、**プライバシー保護や倫理面の課題**は避けて通れません。遺伝子やRNAのデータは個人の健康状態や体質に関わる**センシティブ情報**であり、その扱いには細心の注意が必要です。コンソーシアムもこの点を十分認識しており、活動内容の柱の一つに「**RNAに関するデータ保護とプライバシーに関する厳格なポリシー設定**」を掲げています²⁵。具体的には、本人の同意なしに第三者提供を行わないことや、利用目的を限定し必要以上に長期間データを保持しないこと、匿名化やセキュリティ対策の徹底など、日本の個人情報保護法や関連ガイドラインに沿った運用を約束しています⁶⁸。公式サイトのプライバシーポリシーにも、法令を遵守し適切に個人情報を管理すると明記されています⁶⁸。

しかし技術が普及すればするほど、新たな懸念も生じます。まず、**データ漏洩リスク**です。遺伝子関連データが万一流出すれば、個人の病気リスクや体質情報が不特定多数に知られてしまう恐れがあります。これは差別や偏見につながる可能性もあり、特に保険や雇用の分野では「**遺伝情報による差別（ゲノム差別）**」が国際的にも懸念されています。RNAはDNAと違い先天の情報ではありませんが、それでも健康状態や生活習慣が反映されるため極めてプライベートな情報です。このため、コンソーシアム参加各社には**高度な情報セキュ**

リテリ対策と厳格なアクセス制限が求められます。クラウド上でデータを扱う場合は暗号化や分散管理、解析結果も個人を特定できない形で提供するなど、多層的な防護が必要でしょう。

次に、**利用目的の限定と同意取得**の問題があります。RNA情報は非常に多面的で、例えば肌目的で採取したデータから健康リスクが偶然分かってしまうケースも考えられます。サービス提供企業は「何の目的で何を解析し、その結果をどう使うか」を明示し、ユーザーのインフォームド・コンセントを得る義務があります。コンソーシアムでは**生活者目線に立った安心して利用できる基準づくり**を標榜しており⁵⁴⁵⁵、これはまさにこうした同意プロセスや情報開示の在り方を定めることと言えます。例えば、肌遺伝子モード判定では美容に関する項目以外は解析しない、結果もユーザー本人にのみ提示し第三者（例えば保険会社など）には共有しない、といったルールです。将来的にRNAテックが医療領域に広がる場合は、医師や遺伝カウンセラー等専門職によるサポート体制も含めた倫理指針の整備が必要になるでしょう。

さらに、**データの独占や悪用**への懸念も議論されています。特定企業が大量のRNAデータを集め解析力を独占すると、競争上の優位に立つだけでなくユーザーに不利益を与えかねません。例えば自社の商品売るために都合の良い結果だけ見せる、といった恣意的運用がなされれば信頼は失墜します。コンソーシアム形式で業界標準を作る意義の一つは、**オープンで中立的な指標運用**を図ることにあります⁶⁹。複数社が関与することで一企業による恣意的介入を抑え、透明性の高いデータ利用を促進できます。また、プライバシー保護とイノベーション推進のバランスについては国や業界団体とも連携し、**社会的合意形成**を図りながら進めていく必要があります。個人遺伝情報の事業利用に関しては日本でも経産省や個人情報保護委員会からガイドラインが示されており⁷⁰、RNA共創コンソーシアムの取り組みもこれらの枠組みの中で慎重に進められているものと思われます。

倫理面では、**結果の解釈とフィードバックの在り方**も重要です。ユーザーに対してRNA解析結果をどう伝えるか、過度な不安を与えないよう配慮する必要があります。例えば「あなたのRNAから〇〇のリスクが高いと分かりました」などと一方的に通知すれば、ユーザーに心理的負担をかける恐れがあります。美容目的で利用している人に疾病リスク情報が伝われば戸惑うでしょう。このため「美容用途のサービスでは健康診断的な内容は伝えない」「医療的示唆がある場合は専門医を紹介する」等のガイドライン整備も求められます。コンソーシアムには医療分野の参加企業こそ今はいませんが、キリンなどヘルスケア領域の企業も含まれるため、将来的な**メディカル応用も視野に入れた倫理議論**が期待されます。

最後に、**社会的受容性**の課題があります。どれほど技術的・制度的に安全策を講じても、消費者が「なんとなく不安」「気味が悪い」と感じては普及しません。特に遺伝や遺伝子という言葉にはセンシティブな反応を示す人もいます。そこで鍵となるのは、**分かりやすい説明と価値提案**です。コンソーシアム参加企業は広報やマーケティングを通じて、RNAテックの仕組みやメリットを丁寧に発信していく必要があります。今回CEATECで一般公開し体験してもらった意義は大きく、実際に体験した人の多くは「簡単で面白い」「もっと知りたい」と感じたようです（想定される反応）。このように、**体験を通じたリテラシー向上**が普及には不可欠でしょう。また、信頼醸成のためにはコンソーシアムとしての透明性確保も重要です。例えば第三者機関によるプライバシー監査を受ける、エビデンスを論文やカンファレンスで公表する、など開かれた姿勢を示すことが望まれます。

以上の点を踏まえると、RNA共創コンソーシアムの取り組みは技術・ビジネス面だけでなく**社会制度や倫理との調和**を図りながら進められていることが分かります。課題は多岐にわたりますが、コンソーシアム参加各社が協力し合うことで一企業では対応しきれない問題にも対処できる強みがあります。**「新技術の社会実装は社会との共創でもある」**という意識の下、今後も議論を深めながら倫理的に健全で持続可能なRNAテック活用モデルを築いていくことが期待されます。

結論

RNA共創コンソーシアムの試みは、最先端のバイオテクノロジーと産業界の連携によって**生活者本位の新たな価値基準を創出しようとする挑戦**です。皮脂RNAモニタリングという革新的技術を出発点に、企業の垣根を超

えた共創体制を築いたことで、ビューティ＆ヘルス分野におけるデータ活用・パーソナライズの潮流を大きく前進させました。「**自分のRNAを知ることが当たり前になる社会**」は一見遠い未来のようですが、実際に@cosmeアプリでのサービス提供開始やCEATECでの一般公開を経て、その第一歩が着実に記されつつあります⁵²⁶。コンソーシアムには素材・製品メーカー、小売、IT、ヘルスケアと多様なプレイヤーが集い、それぞれの強みを持ち寄っている点も成功の鍵でしょう。単独企業では成し得ない**データ基盤の共有と標準化**、社会への発信力を備えたこの枠組みは、今後他分野でのモデルケースともなり得ます。

もっとも、RNAテックの本格的な社会実装は始まったばかりであり、技術面・社会面の両方で乗り越えるべき課題が残ります。解析コストの低減や手法のブラッシュアップ、ユーザーデータ保護や倫理基準の整備など、一つひとつ丁寧に対応していく必要があります。しかしコンソーシアムが「**共創**」を掲げるように、まさに様々な知見を持つ企業が協力し合うことでこそ、これらの課題解決とイノベーションの実現が可能になるはずです⁶。RNA共創コンソーシアムはその名の通り、企業と生活者、技術と社会をつなぐ共創プラットフォームとして機能し始めています。RNAテックが普及した暁には、私たちの生活は今よりも**自分自身のことを深く理解し、無駄の少ない満足度の高い選択**に満ちたものとなるでしょう。それは同時に、産業界にとっても**新しい成長と持続可能性**をもたらすものです。DNA解析が一世代前の技術トレンドだとすれば、これからの時代をリードするのは「**RNA解析×共創**」という新たな潮流なのかもしれません。RNA共創コンソーシアムの今後の展開に注目しつつ、社会全体でその未来像を共有し、より良い形で実現していくことが望まれます。

参考資料・出典：RNA共創コンソーシアム公式サイト¹⁶²¹、花王・アイスタイル プレスリリース⁷¹⁷²、PR TIMESニュースリリース¹⁶²、BeautyTech.jp記事⁶⁹⁵⁰ ほか。

1 5 61 64 66 「RNA共創コンソーシアム」が「CEATEC 2025」に出展

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/1007_01.pdf

2 4 7 8 9 12 15 21 22 23 24 25 26 37 38 42 43 44 51 54 55 56 67 71 72 アイススタイルと花王が『RNA共創コンソーシアム』を設立 ～企業の垣根を超えて「作る」「売る」「選ぶ」の新基準を制定し、ビューティ＆ヘルス産業全体で、サステナブルな消費サイクル実現に挑む～ [istyle 株式会社アイススタイル]

<https://www.istyle.co.jp/news/press/2024/03/0311.html>

3 13 PowerPoint プレゼンテーション

<https://www.rna-co-creation.jp/assets/pdf/>

%E3%80%8ERNA%E5%85%B1%E5%89%B5%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%BD%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%82%A2%E3%83%A0%E3%80%

6 47 52 53 57 62 63 65 RNAで「自分を知って」商品やサービスに出会う時代へ「RNA共創コンソーシアム」が「CEATEC 2025」に出展 | 花王株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000575.000070897.html>

10 11 31 32 33 34 35 36 45 46 花王 | 皮脂中に人のRNAが存在することを発見 独自の解析技術「RNA Monitoring (RNAモニタリング)」を開発

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2019/20190604-001/>

14 58 59 60 花王・アイススタイル設立『RNA共創コンソーシアム』に共創パートナーとして参画します - 株式会社ヘルスケアシステムズ | 生活習慣のミスマッチをゼロにする

<https://hc-sys.com/news/240311/>

16 17 18 19 20 27 28 29 30 RNA共創コンソーシアム

<https://www.rna-co-creation.jp/>

39 40 41 49 50 69 花王やアイススタイルなど7社でRNA共創コンソーシアム発足。誰もが使える肌やヘルスケア新指標の社会実装へ | BeautyTech.jp

<https://beautytech.jp/n/nf89226fb0609>

48 【2024年3月】花王とアイススタイルが『RNA共創コンソーシアム ...

<https://beauty-gr.co.jp/make-up/80615/>

68 プライバシーポリシー - RNA共創コンソーシアム

https://www.rna-co-creation.jp/privacy_policy/

70 経済産業分野のうち個人遺伝情報を用いた事業分野における個人 ...

https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/gentec_data_guideline/